



ヨルダンの世界遺産 ～隊商都市ペトラ～

*

イスラム文化や建造物が大好きで、今までにモロッコやエジプトなどのアラブ諸国を旅行してきました。

『隊商都市ペトラ』や『ワディ・ラム保護地域』など、ヨルダンの有名な世界遺産も一度は訪れてみたいと思っていた、アラブの国のひとつでした。その念願が叶い、5年前にヨルダンを旅行した際に訪れた遺産や都市について、記録を残そうと思いました。

今回は、『隊商都市ペトラ』の旅行記です。



『隊商都市ペトラ』は、ヨルダンの西部、アカバ湾と死海の間に位置する遺跡です。西はカイロ、北はエルサレムやシリアのダマスカス、南に紅海があり、古代中東において人や物が行き交う重要な交通の要衝地でした。ここは、ナバテア人の首都であり、砂漠を移動する隊商の中継基地でもあったとされています。



1985年に世界文化遺産に登録されました。

登録基準は以下となります。

(i): 人類の創造的資質を示す傑作。

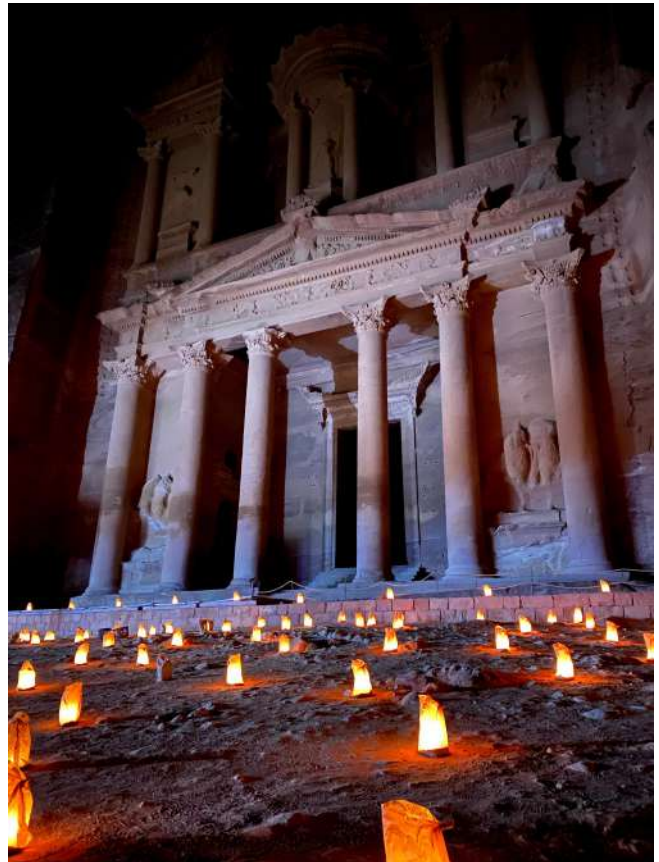
(iii) : 現存する、あるいは消滅した文化的伝統または文明に関する独特な証拠を伝えるもの。

(iv) : 人類の歴史上において代表的な段階を示す、建築様式、建築技術または科学技術の総合体、もしくは景観の顕著な見本。

隊商都市ペトラでは岩を削って造られた美しい建造物をたくさん見る事ができました。有名な建造物『アル・カズネ』はテレビやインターネット、雑誌などで写真を見たことのある人が多いと思いますし、インディージョーンズのロケ地としても有名ですね。

旅の1日目の夜は、幸運なことに「ペトラ・バイ・ナイト」と呼ばれる夜のライトアップ・イベントを見ることができました。キャンドルの灯りに照らされた暗いペトラの岩の間を歩いていくときは少し怖かったものの、日本では見ることのできない幻想的な景観に、とてもわくわくしました。

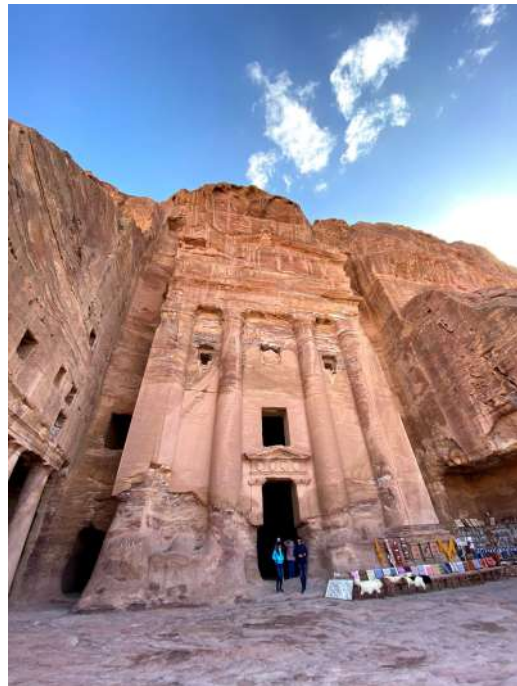
しばらく進むと、無数のキャンドルと美しいライトアップに照らされたアル・カズネが現れ、その美しさに感動しました。



アル・カズネはピンク色の岩地肌を掘って造られたものです。

宝物殿と呼ばれているものの、一体何の目的で造られたのか定かではありません。王族の霊廟なのか、寺院などの宗教施設なのか。謎に包まれた神秘的で荘厳な建造物には心が奪われます。

翌日は、丸1日をかけて、『隊商都市ペトラ』の遺跡をトレッキングしました。前の晩が夜だったため、はっきりとは分からなかったのですが、「シーク」と呼ばれる岩の通路を抜けてアル・カズネが見えてきた瞬間、あらためて興奮が湧きました。



ペトラでは、いたる所でロバが人や荷物を乗せて仕事をしている光景を見かけました。モロッコのフェズなどでも見たことがありましたが、日本では見られないので、とても興味深く感じました。

壮大なファサードの建造物や古代ローマ時代に造られた劇場の跡、王家の墓などを眺めながら歩くと、カフェやお土産などを売る現地の人々の姿も見受けられました。





およそ850段の石段を登って、「エド・ディル」という遺跡まで行き、さらに同じ道に戻った後、今度は「犠牲祭壇」という遺跡を目指して石段を登りました。

ペトラは広大な遺跡なので、1日かけても、すべてを周りきれませんでした。

最後に、遺跡の上でベドウィンの人がご馳走してくれたお茶は、本当に美味しく、心からありがたい一杯でした。



翌日は、『ワディ・ラム保護地域』に移動する前に「ペトラ博物館」を訪れました。ここには、ペトラ遺跡内で発掘された貴重な古代の資料が展示されています。

この博物館は、日本の政府資金援助(ODA)により設立されたものです。ナバテア人がどのような建築技術を使ってペトラの建造物を造ったのか、また、どのような暮らしをしていたのかを垣間見ることができました。



～終わりに～

遺跡の壮大さに感動し、人の優しさに心が温かくなったペトラ遺跡でした(^ ^)。ペトラを訪れる際は、遺跡を散策するというより、トレッキングするという観光スタイルが適していると感じました。多く歩いたため、その日のヨルダン料理の料理教室では、途中で疲れ切って、ヘロヘロになってしまいました。次回訪れる際には、余裕をもったスケジュールを立てるつもりです。



世界遺産アカデミー認定講師

世界遺産検定マイスター

中山 直美